

# 高退協 ニュース

高退協事務局

1980. 7

No. 6

高教組新執行部の挨拶と紹介  
障害児教育一筋に三十年  
ヘレンケラー賞受賞祝賀会  
第二回高知空襲展終る  
事務局からのお願ひ

## 暑中お見舞

### 申しあげます

暑さきびしい折柄健康には  
くれぐれもご自愛下さい。

高退協事務局

## 高教組を代表して

### 執行委員長 坪井幹之

高退協の皆さん、お元気ですか。今年度、委員長の役を小松さんから引継ぎました坪井です。四度目の執行部入りとなりました。これが最後のご奉公と思つて、頑張つていきます。

先達のダブル選挙はまもなく自民党にやられました。永年権力を牛耳ってきただけあって、自民党の底力はなかなかのものがあつます。自民党の悪政を打破つて、国民本位の政治を表現する力は革新一だけだつた。そのことは六〇年代から七〇年代前半にかけて、地方政治の舞台で実証済みです。東京・大阪・京都等多くの地方自治体で、革新統一は立派にその統治能力を発揮しました。高知でもしかりです。高退協の一員でもある杉本さんは短い期間でしたが、高知市政の民主化に大きな足跡を残しました。すすむべき道はただ一つです。「捲土重来、八〇年代を革新統一の時代にしてしよう」——私らは七月十一日・十二日に開催されました高教組大会で、革新統一戦線を再構築することを誓ひ合いました。

高教組の組合員も千名の大台に近づきつつあります。高退協の皆さん方が血と汗とで切り拓いてきたたいた平和と民主主義の大道を「教え子」を再び戦場に送るな」のスローガンを高くかかげて、更に邁進する決意です。

次に、今年度の執行部の面々を紹介させていただきます。

南千加良 (副委員長・教文担当)  
叶岡淑子 (副委員長・法制婦人)  
岡松 勝 (専従・書記長)  
井垣政利 (書記次長・文化青年)  
前田節雄 (調査・事務担当)  
森下芳文 (障害児担当)  
樋口勇雄 (情宣・共斗担当)  
岡崎修一 (安芸支部書記長)  
梶原祥三 (香長支部書記長)  
関本一雄 (高知市支部書記長)  
関本清二 (高吾支部書記長)  
鎌倉信吉 (高岡支部書記長)  
鎌田伸一 (幡多支部書記長)  
胡摩崎ゆり子 (専従・会計庶務)

最後に、皆さん方のご指導・ご協力を心から願ひして挨拶にかえます。

## 障害児教育

### 一筋に三十年

平野日出男

「ヘレン・ケラー賞」等とさわがれると、あまりにも暗れがましすぎて、今までいったい何をしておいたのかと振り返らざるを得ない状態に追い込まれる。

今春、菜々葉服に雑のう一つかゝってシベリアから引き上げ、行李一つで高知へ出て来よう学校に入ったのも昨日のことのように思えるが、その間にはいろんな事があった。中でも動評斗争は私の歩みを決定づけたものとして忘れられない出来ごとである。

盲学校から北の川の異動。研究所からろろ学校への途すがあつて、重複障害児との出会いになる。

去る六月二十八日の授賞パーティーでは盲学校当時の教え子たちが、私のために喜び、歌ってくれた。一緒に歌った「どじよっこ、ふなっこ」は私が長野教研でおぼえて来て、子どもたちに教えたものである。

ところが、重複障害児といわれる子どもたちは……そこには話を持たない者の哀しみがあつた。この哀しい子どもたちが、私に本當の教育を教えてくれたのだから、すばらしい。

その子らにあって私は残酷な教師であつた。来る日も来る日も子どもを屈服させ、服従させることしか考えなかつた。

話をしなさいといつては叱り、さわがしいといつては叱り、子どもに教育らしいことをしてやつたこととはない。思い出されるのは子どもと遊びほうけたことだけである。

その中の子どもが「父が六十一才になつて体が弱つた。私が父にかわつてプロペンの配達をしていゝる。先生おめでとー」という手紙をくれたのにはほろろとさせられた。

私にとってこの子らは宝である。今は民主主義だ、人権尊重だといふ声は高いが、障害児が「阿呆だ」「かたわがだ」と言われる思想的背景はまだ残つてゐる。

政治や経済は個人の生命や幸せとは無関係に流れてゐる気もする。私の三十年は障害者への偏見や差別との闘ひであつたかどうかが、改めて考えてみたいものである。

## 平野日出男先生

### ヘレンケラー賞受賞

高知会館で、盛大に祝賀会

障害児教育につくし、一九七九年度、ヘレンケラー賞受賞が決まつていた、元高知県立ろろ学校教諭、平野日出男先生の同賞授与祝賀会が、去る六月二十八日、高知会館で盛大に行なわれました。

平野日出男先生は、県立高知ろろ学校教諭を、今春退職するまで約三十年間、障害児教育一筋にたくみ、特に重複障害児教育の科学的的研究と、粘り強い教育実践が認められ、「ヘレンケラー賞」(財団法人・青島会主宰)受賞がきまつていたもので、四国では初の受賞者です。

当日の祝賀会は、高教組森下芳文障害児担当執行委員長を中心に、高退協・障害者の生活と権利を守る県連協協議会・四国四県の果教組障害児部長等およびかけて、教育委員会・県下の障害児学校の教職員・福祉団体の関係者・教え子等多数集まりました。

会場では、青島会の三島敏男事務局長よりヘレンケラー賞の選考経過の報告につき、ヘレンケラー賞の授与がおこなわれ、高知果教委員会、宮地恒雄高校教育課長・高知果教組西森稔委員長・高教組坪井幹之委員長らが祝辞をのべました。

最後に平野先生が「この受賞をみんなでお祝い、これからも障害児教育にとりくみます」と挨拶、大きな拍手につつまれました。

また、会場には平野先生の教育実践を終始、あたくしく激励し、支えてきた治子夫人も出席し、喜びをかみしめていました。

これからも健康にはくれぐれも気をつけて、活躍されることを祈つてやみません。(事務局)

## 機関誌を

### 創りたいと思います

みなさん、いかがお過ごしですか。高退協の本年度総会(四月二十八日)決定で会員相互の旧交をあたためるために「機関誌」を発行することになりました。

俳句・詩・短歌・エッセイ・小説などを含めて、十月下旬締切り予定で発行したいと思ひます。くわしい内容等については、次号ニュースでお知らせしますが、みなさんのご賛同を願ひします。

編集責任者 浜田昌俊

## 第二回高知空襲展終る

本年も七月四日の高知空襲を記念して、第二回高知空襲展(高知空襲・被災を記録する会、杉本恒星会長主催)が高知市中央公民館で六月三十日より七月六日迄開催され、高退協も後援団体として事務局を中心に展示・受付等の活動を行いました。会期を通じ五千人の入場者があり、空襲当時の懐い出や、被災者の消息等について話して行く方も多く、また多数の小中高生の入場者もあり反戦平和運動としての大きな成果がありました。

また今年度は最初の試みとして七月四日夜六時半よりグリーンホールに於て慰霊祭と記念集會が行われ、キリスト教及び仏式によって参加者の献花・高知市長の慰霊文の朗読、被災者の方の当時の様子の報告等がありました。中でも空襲で右腕を失われ、その後全く国からの援助もなく生きて来た坂本喜美枝さんの報告は参加者の涙を誘ひ、戦争を起した者への怒りを呼び起しました。

記念式典では広島原爆のアニメーション映画と、作家千田夏光氏の「あの戦争は終つたか」と題する記念講演があり、最後に渋谷聖会長の戦争反対・平和を訴える挨拶で式を終りました。

## アンケートのお願い

先日の総会の席で、会員名簿に各人の動静を記入せよとのご意見が出されました。これは今回は間に合いませんでしたが、お互いにかつての同僚の動静は気になる所です。また事務局としても、皆様方のご様子を知っておれば何かとお役に立つこともあるかと思ひますので、今回同封のハガキのようなアンケートを実施する事にしました。結果については会報または機関紙を通じて皆様方にお返し致しますのでご協力下さいませようお願いします。

成るべく折返しご返事下さい。

## 会費納入のお願い

本年度は機関紙発行等かなり多くの事業を計画していますので、会費年額千円、同封の振替用紙にて早目にご送付下さるようお願いいたします。